

カトリック

# 広島教区報

## 広島教区に新司教任命

教皇ベネディクト十六世は、六月十三日にトマス・アクィナス前田万葉師（長崎教区・中央協議会事務局長 六十二歳）を広島教区司教に任命すると発表した。これをもって二十六年間、広島教区のために尽力されたヨゼフ三末篤實司教は、教区長としての任務を終えることとなる。

### 司教叙階式 九月二十三日（祝金）

よろしく  
お願いいたします

トマス・アクィナス

このたび、教皇ベネディクト十六世により広島教区の新司教に任命された、トマス・アクィナス前田万葉と申します。

今年六月一日（更衣の日）、教皇庁大使館に突然



前田 万葉 被選司教

広島教区には、幸いに「平和の使徒となろう」という大きな目標があります。母が長崎で被爆し、私も被爆

呼び出され、「広島教区新司教に任命されたので今ここで受諾の手紙を書いてください」との、命を受けました。状況からしてみても断れず、「おことばですがから網をおろしてみましよう」（ルカ五の五）と、祈りながら手紙を書き、サインしてしまいました。断れず 網をおろすや 更衣

No. 85

カトリック 広島司教区

発行責任者  
広報担当  
原田豊己神父

「点訳版」あります。  
お問い合わせください。

広島市中区幟町 4-42  
広島司教館内  
TEL (082)221-6017

二世ですから、この目標には何か摂理を感じます。平和は、「仕えられるためではなく仕えるために」をモットーに、先ず仕え合う「仕合わせ」を身近なところから実践していくことだと思います。「核兵器のない世界」を目指すと同時に、「仕え合うしあわせ・キリストの平和」の使徒となりましょう。

広島に

網をおろすや

原爆忌

### 司教叙階式

日時：2011年9月23日（祝金）13時  
場所：広島教区司教座聖堂  
（幟町教会 世界平和記念聖堂）  
主司式：ヨゼフ 三末 篤實 司教  
受階者：トマス・アクィナス  
前田 万葉 被選司教

### 退任にあたって

ヨゼフ三末篤實司教



教会法の規定に従い、今年で定年を迎え、教区長を退任することになりました。

教皇ベネディクト十六世からの承認を賜り後継者としてトマス・アクィナス前田万葉師が広島教区長・司教として任命されました。ことわざに「光陰矢の如し」とありますが、今になってみますと全くそのような感じでは

教区長・司教在位二十六年三ヶ月の長きにわたり、

沢山の皆様方、司祭、修道者、信徒の皆様をはじめ、一般社会の多くの方々へ言

教区の動き・バルト新司教叙階式  
東日本大震災支援関連記事  
各地区情報・海峡からの風・教区内の施設  
青少年情報・ひと粒

二・三  
四・五  
六・七  
八面

葉では言いつくせないほど大変お世話様に与かりご支援、ご協力、ご配慮を賜りました。ここに紙面をおかりして厚く御礼を申しあげ、心から感謝申しあげます。

二十六年間の歴史の流れをふりかえることはできませんが、ただ多くの方々からいただきましたお祈りと沢山の恩恵に対して神がすべてにお報い下さいますようお願いいたします。次第です。

最後に新教区長トマス・アクィナス前田万葉司教へ、私に賜りました以上に、ご支援、ご協力、お祈りを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

広島教区が新教区長・司教のご指導のもとに、より発展し、「神の国」の完成に向かつて邁進されますよう希ってやみません。

皆様のうえに神の祝福をお祈りし、退任のことばといたします。

**教区の動き**  
 「二〇一一年度(臨時)広島司教区信徒・修道者・司祭連絡協議会開催」

去る六月十九日、臨時の二〇一一年度広島司教区連絡協議会(以下、連絡協議会)が、広島カトリック会館多目的ホールで開催された。司祭、修道者、信徒の二十二名が出席した。

本来、二〇一一年度第一回教区宣教司牧評議会が開催されるこの時期であるが、六月十三日の三末司教辞任の受理により、前田新司教叙階までの期間は、広島教区長が空位(教会法四百十六条)となるため、この間の教区宣教司牧評議会は開催できないためである。(教会法五百十三条)

よって臨時としての位置付けで連絡協議会が開催され、次のことが話し合われた。

まず、二〇一一年版「平和の使徒となろう」ガイドライン(案)の説明があった。このガイドライン(案)の作成には、専門の見直し委員会が組織され、この委員

会を中心に原案が作成された後、各地区の意見を集約し、更に修正されたものが、本連絡協議会に提案された。

ガイドライン(案)のそれぞれを取り組み内容を、簡単なことばで表現したキャッチフレーズは、

「平和」|| 「いのちを尊び」「平和の波を」「日々実践」「きょうどう」|| 「互いに受けいれ合い」「協力一致」「新たな一歩」

「養成」|| 「育て合う信仰」「ミサを大切に」「みことばが源泉」

「多文化共生」|| 「違いを超えて」「共同体を豊かに」「暮らしやすい社会」である。

このガイドライン(案)をもとに、各地区レベルで方向性を確認、検討し、具体的に取り組んでもらうことが期待される。

次にこのガイドライン(案)について、四つの分かち合いグループで、意見交換が実施された。

分かち合い後、各グルー



**平和の使徒推進本部**

プから簡単な報告とガイドライン(案)についての意見・要望が出された。この意見・要望を受け、このガイドライン(案)を、再度、修正検討し、今後、新司教に提案し確認を頂いた後、正式発行することで、出席者の了承を得た。

その他、各地区から五月に開催された地区宣教司牧評議会の報告、伯雲ブ

ロックから二〇一一年度活動方針について報告があった。

連絡協議会の後半は、平和の使徒推進本部からのお知らせとして、次の二件のことが発表された。

一件目は、推進本部職員であるシスター山本が、来年二〇一二年三月末まで仙台教区サポートセンターへ

広島教区から出向し、支援活動する。また、信徒一名(高浜氏・前平和行事実行委員長)も同様に派遣されている。この二名とは容易に連絡が取れるため、仙台

から簡単な報告とガイドライン(案)についての意見・要望が出された。この意見・要望を受け、このガイドライン(案)を、再度、修正検討し、今後、新司教に提案し確認を頂いた後、正式発行することで、出席者の了承を得た。

**2011 平和行事 「未来への責任 2011」**  
 日時:8月5日(金) 6日(土) 9日(火)  
 場所:世界平和記念聖堂他



**平和行事 主なプログラム**

**「八月五日の主なプログラム」**

○シンポジウム

十三時三十分〜十四時四十五分  
 テーマ「証一九四五・二〇一一」

発題者:山口裕子(被爆者・職町教会信徒)、大塚愛(ハイ

ロアクション福島原発四十年実行委員会)、江藤さおり(長崎

教区信徒・災害ボランティア)

○分科会 シンポジウムを受けての分かち合い その他

十五時〜十六時三十分

①原発との共存はあり得るか

②3・11からの問いかけ

③被爆証言 長谷川 儀神父

④講演 植野浩(ヒロシマ学習証言センター世話人代表)

○子どもプログラム

十五時半〜十七時半

ヒロシマ・絵本の読み聞かせ

○原爆供養塔前での祈りの集い

十七時十五分〜十七時五十分

○平和行進(原爆供養塔前〜本通り)世界平和記念聖堂)

十七時五十分〜十八時半

○平和祈願ミサ

十九時〜二十時十五分

**「八月六日の主なプログラム」**

○原爆・すべての戦争犠牲者追悼ミサ 八時〜九時

○世界平和記念聖堂案内 九時三十分〜十二時

○ピースウォーク 九時三十分〜十二時三十分

軍都広島島の足跡をめぐり、戦争の歴史を振り返ります。

○8・6キリスト者平和の祈り 十四時〜十五時半

プロテスタントとカトリックがともに集い心をひとつにして平和実現のために祈ります。

○原爆犠牲者のためのスピリチュアルコンサート 十八時〜二十一時

エザベト音楽大学同窓会

エザベト音楽大学同窓会

エザベト音楽大学同窓会

エザベト音楽大学同窓会

エザベト音楽大学同窓会

エザベト音楽大学同窓会

教区への支援活動における情報の一助になることが期待される。

二件目は、平和の使徒推進本部長であった祇山氏が、任期満了で本部長を退任した。後任は未決定であり、現在、本部長不在である。

**バルト新司祭  
祖国コンゴで叙階式**

七月一日、バルト(サシ・マイエンダ・バルテレミ)新司祭(倉敷地域共同宣教司牧チーム・淳心会)の叙階式が新司祭の祖国コンゴ民主共和国で行われた。広島教区から、野中神父(倉敷地域共同宣教司牧チーム・モデラートル)と服部



中央、バルト神父、右となりから順に、服部神父、野中神父

る。  
以上の内容が話し合われ、終わりの祈りと祝福により本連絡協議会を閉会した。

二〇一一年度第一回教区宣教司牧評議会の開催は、新司教叙階後、日程調整が

神父(尾道教会主任)も同席した。

叙階式は、午前十時から午後三時と長時間にわたって行われ、新しい五人の司祭と八人の助祭が誕生した。

バルト神父は、四年前に来日。二〇一〇年四月より倉敷地域共同宣教司牧チームメンバーとして派遣され、同年十一月三日に倉敷教会で助祭に叙階され活動していた。

**乙女峠まつり  
六十周年**

五月三日、長崎・浦上四番崩れによるキリシタン流配地の一つ、島根県津和野町の乙女峠で「乙女峠まつり」が行われた。今年は、六十周年の節目にあたり、二千五百人を超える参加者(司祭四十人)が集まり、

行われる予定である。この教区宣司評は、評議員によつて構成された評議会であるが、「社会における信仰の証し」を実践していくために、広島教区民である私たち一人ひとりの意見も必要である。

ともに祈りをささげた。ミサの司式は、大阪教区・池長大司教が執り行った。



乙女峠

**三末司教叙階二十六  
周年記念と司祭・修  
道者のダイヤモン  
ド・金祝**

六月五日(日)三末篤實司教叙階二十六周年記念と司祭・修道者のダイヤモンド・金祝のミサとお祝い、山口教会で盛大に行われた。

**高松教区・大分教区に新司教誕生**

六月十九日、高松教区カテドラルの桜町教会で、使徒ヨハネ誦読祭次郎司教の叙階式が行われた。司祭・修道者・信徒など千五百名が集まり、その様子は、ライブ映像でインターネット配信された。



諏訪 榮治郎 司教

また、翌週の二十六日には、大分教区においてパウロ浜口末男司教の叙階式が、別府のビーコンプラザホールで行われた。長崎教区の信徒も集い、千八百人が浜口司教とともに祈りをささげた。



浜口 末男司教

●ダイヤモンド祝

(叙階六十年)

イエズス会

リントホルスト・トマス神父

●金祝(叙階五十年)

教区司祭 早副穰神父

●金祝(入会五十年)

援助マリア修道会

シスター馬場智恵子

シスター森元良子

シスター鈴木啓子

シスター高戸千代



前列、三末司教と援助マリア会のシスター



リントホルスト神父



早副神父

# 東日本大震災支援

## 広島司教区災害サポートセンター

カトリック新聞などで報じられていますが、六月に行われた「司教総会」において日本の教会として仙台司教区をサポートすることになりました。被害のある三県をそれぞれ三教会管区（長崎・大阪・東京）でサポートすることがその骨子です。大阪教会管区は、宮城県を中心とすることになりました。そのため、「広島司教区災害サポートセンター」もその傘下に組み込まれます。具体的なこととして、大阪教会管区は二名の司祭を派遣することになりました。これから約三年間にわたり、管区内で協力し合いながら司祭を派遣してゆくプロジェクトです。

### 全国担当者会議

七月十一日から十二日にかけて仙台カテドラル元寺小路教会において「全国の教会が被災沿岸部を支援するプロジェクト」全国担当者会議が開催されました。

広島司教区から、原田神父（災害サポートセンター担当）と野寄神父（カリタスジャパン担当）が出席しました。

その会議では、六月の司教総会の決定に従って各教会管区が支援する地域の確認と、現在各司教区が行っている支援の報告と分かち合いが行われました。沖縄の那覇司教区から、北海道の札幌司教区まで全司教区から参加があり、この会議に対する関心の高さがうかがえました。

### 福島県視察

十二日は、仙台から海岸線の亘理市を通り、南相馬市原町教会（福島第一原発から二十四・五キロ）と付属幼稚園、伊達市から福島市、須賀川教会、郡山教会までを視察しました。

この地区は、地震津波の被害を受け、さらに原発から出される放射線量が高い地域です。

### 広島司教区災害サポートセンター収支報告 (6月30日現在)

収入	献金	2,419,560
	収入計	2,419,560
支出	負担分振込手数料	2,880
	仙台 車両運搬他	107,500
	仙台交通費（職員派遣）	24,000
	支出計	134,380
残高		2,285,180

\*注 大阪教会管区は、広島教区・高松教区・大阪教区・京都教区・名古屋教区の5つの教区で構成されている。

園を再開することができません。放射線量の高いこともあり、行政指導が入っています。登録園児は十数名。多くの園児が避難してゆきました。一人は、隠岐島に避難されたそうです。この七月三十一日が、遅くなった卒園式。先生方は、園児のために心を込めた準備をしておられました。

**お知らせ**

「広島司教区災害サポートセンター」は、支援活動に関する情報を集め教区報やホームページ等で発信しています。各小教区などの活動をお知らせください。メールアドレスは、[pax@hiroshima.catholic.jp](mailto:pax@hiroshima.catholic.jp)です。よろしくお願ひします。（原田豊己神父）

## 仙台から

尾道教会

服部 大介 神父



宮城県大船渡市

お休みを頂いて五月の半ばから仙台に行きました。カトリック教会の被災地支援の一つとして、支援物資の手配やボランティアの受け入れ体制を作っていて、その仙台教区サポートセンターというところでお手伝いを行いました。被災地の近くでボランティアを受け入れてくださる教会をボランティアベースとしており、現在四つの教会（塩釜、石巻、米川、釜石）がベースになっています。そのベースの状況に合わせて、ボランティアを送り出した



塩釜教会（ボランティアベース）

こちらに来て一番驚いたのは、仙台市内の中心では全く地震の被害が分らないほどにぎやかで、広島を中心街の様子と変わらないほどです。物資も今では何でも揃っているという感じですし、中心街だけでなく、被害を受けていないところは普段どおりになっているのではないかと思うほどです。しかし、いざ被災地に行くと、本当にひどい状態

で、どうしようもなく言葉も出なくなりません。自分が見ることができたのは、ボランティアベースの近くの被災地だけでしたが、沿岸地域一帯にずっとこういう状況が続いているということをおもうと、その凄さは大変なものです。

被災地の方々への支援はこれからますます必要とされてきますし、遠く離れたわたしたちも長い支援をしつかりと考えていくことを覚悟すべきでしょう。そして、やはり若い方々にとっては、自分たちの役割としてしっかりと何らかの関わりを考えることができるように、ボランティアとして来てほしいと本当に思います。

### 釜石教会で

下関ブロック担当

中井淳神父

五月二十八日から八日間岩手県の釜石教会にボランティアに行っていました。最初は側溝の泥を掻き出す肉體労働、その後は心のケアチームに入り、傾聴ボランティアをさせていただき

ました。被災した方々の話を聴かせていただいたり、避難所でマツサージをしたり、まわったり、避難所の子供たちと一緒に遊んだりということをしました。特に印象深かったのは、釜石教会が今はボランティアのベースキャンピングとして地域へと開かれて、神の道具となっているということでした。カリタスジャパンから申し込んだボランティアの方々が宗教、思想の違いを越えて一つとなつて生活し、教会に設けられた憩いの広場に毎日多くの被災者の方々が訪れています。教会が新たにされているということが肌で感じる事ができたことは貴重な体験でした。まだまだ復旧の道のりは



中央、中井神父

### 塩釜市での被災地ボランティア

岡山教会

高橋 歩

五月十日から十六日の間、岡山教会の十九、二十三歳の女子三名で、カリタスジャパンを通じ、宮城県塩釜市でボランティアをさせていただきます。私たちは塩釜教会に泊まり、塩釜市社会福祉協議会の災害ボランティアセンターで仕事をいただきました。

主な活動は、津波で汚れた個人宅の壁や床の清掃、商店の壁の木材や断熱材の除去、ヘドロの詰まったコップの洗浄、がれきの除去や、仮設住宅への日用品の運搬、救援物資の仕分け等です。危険は少なからずつきまといまいます。被災地にいる方々は心に



深く傷を負っています。大切なものを多く失いました。それでも私たちを見かけると、笑顔で「ありがとうございます」と言ってくれます。現地に行けば、被災地の心の励みにもなれます。心に寄り添って作業をすることが出来ます。まだ現地は人手不足です。たくさんの方が、東日本被災した兄弟姉妹のために、神様の手足として自分を捧げてくれるようお祈りします。

### 釜山教区の神父 世界平和記念聖堂でオルガンコンサート



金仁煥神父 (キム・インファン)

五月二十四日(火)、世界平和記念聖堂で釜山教区カテドラル南川(ナムチョン)聖堂オルガニスト、金仁煥神父によるオルガンコンサートが行われた。金神父の力強く繊細なオルガンと歌で観客を魅了した。収益の全ては、東日本震災支援と世界平和記念聖堂補修のために使われる。

長いと思います。あちやんが、今はおぼろげな笑顔を見せてくれるようになった」という心のケアチームのリーダーの言葉のように、少しずつでも希望が広がっているのを感じます。私自身がたくさんのものをいただいて帰りました。

今、下関の教会から何が出来るのかみんなで考えています。

地区便り

山口・島根地区

●九月

\*祈りの体験2の③…九月三日(土)地区事務局にて。

\*地区宣教司牧評議会…九月四日(日)、地区事務局にて。

\*信徒使徒職協議会定例会…九月十一日(日)、山口カトリックセンターにて。

●十月

\*教区召命合同祈りの集い…十月二十一日(金)、山口島根地区引受。会場など詳細については、九月にお知らせする予定。

●十一月

\*信者養成研修会「信徒の神学」…十一月十二日(土)～十三日(日)、宗像黙想の家にて。

\*祈りの体験2の④…十一月十九日(土)地区事務局にて。

\*地区大会…十一月二十三日(水)、山口教育会館にて。

☆イエズス会木与研修所 イエズス会の木与研修所は、二〇一三年三月までに閉鎖されることになった。

広島地区

広島地区召命祈りの集い

新緑の美しい五月晴れの五月二十日、東広島教会ではじめての召命の集いが行われた。今年へ「東日本大震災からの呼びかけに私たちは？」という副テーマも加えられた。後藤神父様、ジェロム神父様をはじめ八小教区から三十名、また信者ではない地域の方二十名にもお越しいただき七十二名の参加だった。

シスター井上のご指導のもと全員でロザリオの祈りを唱えたあと、仙台教区八木山教会の野田和雄さんらのお便りによる被災地の現状報告、被災地の子どもたちにボランティア活動を



東広島教会

しておられる広島大学院生の小松真理子さんの活動の報告、最後に東広島在住で被災者のお世話されている民生委員の西岡好子さんの呼びかけに耳を傾けた。また地元高屋地区コーラスグループの「青い空は」を聴きながら被災地に思いを馳せた。涙されながら歌っておられるコーラスメンバーの方もおられた。午後からは五グループで熱心に分かち合いが行われた。

この度の集いは聖職者の召命だけに止まらず、震災を通して私たち一人ひとりの召命とは何かを深く考える良い機会だったように思う。広島教区でも災害サポートセンターが設立されるが、今一度、各自がキリストに向き合い、信者だからこそキリストに訴えたいこの辛さをすべて吐き出し、そして祈りの中で神の呼びかけに全身全霊をかけて責任を果たしたい。東日本大震災が私たちに改めて召命の意味を教えてくれたような気がした。

(東広島教会 二野宮賀子)

海峡からの風 22

下関労働教育センターだより

墨を入れても墨で消さない

本州の端の当センターと関る風が、東北被災地へと四回程流れ「新しい創造の風」が吹き返されて来ました。これからも続きます。己に厳しく学んだ事の一つに、「願わくば、心有らん人、年々文字読み安きよう墨を入れ給ふべし」という、過酷な過去の地震津波災害が後世に残した石碑の戒めもありました。

広島教区から平和憲法に墨を入れて祈ります。かつて戦前戦中の教科書に墨を塗り、国の歩みの誤りを消して学んだ事が有ります。特に今、又蠢く(うごめく)歴史教科書に墨を塗るかの如き盲動の中です。歴史への責任を取る大人の後ろ姿も教科書も、子どもの思想信条に一生残り伝わります。歪められた歴史教科書は子どもの「心の内部被曝」をもたらします。広島こそ歴史を正し叫び、真の平和への展望を拓く原点と思えます。

申し送りの無い歴史は有りません。無関心、無視改竄(かいざん)は有ったとしてもです。唯、世相の移り変わりの風雨に、石碑の教訓の文字も褪せて判読できなくなりまます。その文字跡に墨を入れて歴史の学びを生かすことは、何時の時代にも大切なことです。時の権力にとつて不都合な事も、負の出来事であってもです。

祝島の反上関原発の積み重ねられた長年の努力と共に新しい自然エネルギーによる島おこしが進んでいます(祝島自然エネルギー100%プロジェクト)。その試みは東北被災地の新しい創造へと繋がります。「つながらぬくもりプロジェクト」がスタートしています。「1% for 祝島」を知り、参加する夏で有り、端っこで福音を受け発信するセンターで有りたいです。サポートよろしく。

(林尚志神父)

心潰れる思いの今年の、原発崩壊被災地を含む東日本初の初盆に心向け、被爆の

J-CaRM 広島便り

### 山口県教会外国人コミュニティ活動が軌道に乗ってきました！

#### 山口地区 シスター・ノナ

私は去年二月に宇部教会に参りました。山口県には、日本人と結婚した外国人女性が大勢住んでいて、初めて外国で暮らすわたしには、心強かったです。山口県に来て、彼らの日常生活を知り、彼らの希望や抱える問題などについても理解することができました。そして、彼らは周囲の人々のサポートや神様の支えを必要としていることがわかりました。そこで、私たちは山口県の外国人のためのコミュニティ活動を活性化したいこうと活動を始めました。

その活動は、まず、ミサや巡礼、黙想などの信仰の活動。二つ目は、カウンセリングや家庭訪問、DVへの対応などの活動、三つ目は、クリスマスパーティーや誕生パーティーなどの親睦活動です。それから将来は、外

国人の若者や子どもたちのためのサポート活動をしたり、現在わたしたちのエ

リアに八つあるコミュニティ(宇部、下関、高千穂、山口サビエル、防府、徳山、岩国、浜田)に加えて、新しく萩、柳井、光、津和野の四ヶ所にコミュニティを作りたいと思っています。現在、日本人のボランティアの人たちが、教会の様々な活動を手伝ってくれています。日本語や日本の文化についても教えてもらっています。わたしたち外国人にはとても有難いサポートです。また、山口県の教会の神父様たちにもい



3月20日山口教会で四旬節黙想会 (中央はパトリック神父)

ろいろなご協力をお願いいたします。神様とみなさまのお蔭でわたしたちの

### 岡山・鳥取地区

#### 仙台教区へ定期的に献金

岡山鳥取地区では、五月八日に第一回宣教司牧評議会を持ち、広島教区年間

テーマ「平和の使徒となろう」、サブテーマ「社会における信仰の証し」に沿って、地区サブテーマを考えた。特に、東日本大震災の支援については、ミサの中で「被災者のための祈り」をする、チャリティーコンサート(レクイエムコンサート、トロンボーンコンサート、フォークソングライブ等々)を開催し、カリタスジャパン、仙台教区へ定期的に献金をしています。また、「ふんばろう東日本支援okayama」に協力しています。年間を通じて継続して支援活動を行い、主に現地または教区サポートセンター要請の物資を支援しています。

(地区事務局長 北川)

活動も軌道に乗ってまいりました。今後どうぞよろしくお願いいたします。

### 広島教区の施設

#### ノートルダム清心

#### 中・高等学校

原爆で焦土と化した広島の地に、ノートルダム清心中学校が創立されたのは、原爆投下後わずか四年後の一九四九年。それから今日までの六十二年という歩みの中で、広島市内にあるカトリックの女子校として発展し続けてきました。

ノートルダム修道女会の学校が掲げている校訓「心を清くし、愛の人であれ」は、私たち自身の心を清らかに澄まし社会全体の中で「愛」を実践していく人となることができるように、と語りかけてくる言葉です。この精神に基づいて、日々の祈りの中では自己を振り返って感謝することを学び、ボランティア活動を通して人々を思いやる心を大切ににし、特に困っている人々や苦しんでいる人々のために、自分の持っている力と時間を使う体験をしています。



毎年、五月の学園創立者聖ジュリーの日と十二月のクリスマスには、アフリカのジンバブエにある姉妹校へ物資援助を行っています。また、八月六日には、生徒有志が世界平和記念聖堂案内のお手伝いをさせていただきました。広島に住む者として平和へのメッセージを発信しています。一方、本校独自の委員会であるND A(ノートルダムアクション)委員会は、募金活動や清掃ボランティアへの参加、災害地への救援活動などを行い、学校全体のボランティア活動の推進に貢献しています。

生徒たちは毎日の授業はもちろん、クラブや委員会活動、学校行事など、何事にも精一杯取り組んでおり、その懸命な姿と彼女らを持つ若いパワーには、いつも感動させられます。一人ひとりが持っている才能を伸ばしながら、各自に与えられた尊い使命を自覚し、それを社会の中で人のために生かしていく人間として成長できるように、日々努めています。

